

わんぱく相撲全国大会



7月29日、東京国技館で第6回わんぱく相撲全国大会が開催されました。黒埼町からはわんぱく相撲黒埼場所選出された代表選手3人が出場。結果は右の通りです。



で黒埼チームが健闘

- ◆4年生の部 小寺浩実くん 2回戦進出
 - ◆5年生の部 岩田雄樹くん 2回戦進出
 - ◆6年生の部 相馬進也くん 2回戦進出
- (なお、全国からは 151チーム 453人が参加)

街かど

- 募集しています
 - 短歌
 - 俳句
 - 詩
 - 随筆
 - イラスト
 - 写真
 - まんが
 - その他
- 町への意見や要望も受け付けます
- 文章は苦手という方は連絡を取材に行きます
- 匿名もよいです
- 投稿・連絡先は 黒埼町大野2843-1 広報「街かど」係 377-3101



呼び声届く手の届く日々のリハビリ怠らず

主人が脳梗塞で桑名病院に入院して五十日目、退院することになりました。その日に新井先生は「病気が本人が生きるという気がなければ治らない。よくならうと思つて努力しなさい。退院してもお酒を飲んだり転んだりして再発すると起き上がるので、できないベッドの人になります。少しでも悪いと思つたらすぐに来なさい」と優しく申されました。また、山崎先生は「これから寒くなりますから、部屋を暖かくしてリハビリをしないで。手足や体を動かさないと立ち上がることも出来なくなると注意してください。」

脳梗塞は手遅れや再発が恐ろしい病気。主人が具合が悪くて真柄先生から診察をしていただき、桑名病院に入院させていただきましたので、手遅れにならないで、本当にありがとうございました。

今度は再発から主人を守らなければならぬと思ひ、一生懸命に考えたのが「呼び声届く手の届く日々のリハビリ怠らず」でした。

家に療養するようになりましてから、寒中は朝五時に病

室と二間にストーブをつけました。主人の起きる六時半ころには家中が暖かく、家中にはすき間風がありません。

夏になると朝、表戸を五時に開け、窓を開けて家の中に朝の涼しい清い風を通します。食事は病院の食事をお手本として好みを一品添えて時間正しく三度の食事をいっしょにいただきます(食べ具合を見る)。リハビリは朝食の前に手足腰を動かして発声のため声を大きく三百数えます。昼寝は午前午後、時間正しく静かに休みます。

毎日の中にさかあがり機、

まわり椅子、主人の自由に動いています。新井先生・山崎先生の教えやご注意をよく守り、一生懸命に生きるために努力しています。

退院一年後くらいから五頭の麓の温泉に十五日二十日と家の車に送り迎えをしてもらいます。

春湯治荷物の中の車椅子 病みてより、やがて三年になります。リハビリは夫婦の楽しみとして続けたい。

佐藤 キン(大野)

中の口川ボート下りの記

黒埼に越してきて八年、いつかの口川をゴムボートで下つてみたいと思つていました。昭和六十二年八月十一日に第一回の川下りを敢行しました。白根市水道配水塔下から出発、七穂まで。準備した物は、レジジャー用ゴムボート・カメラ・飲み水・昼食用パンなどです。

土手の上から見下す川辺の風景を見慣れている私には、水上のボートから見上げる兩岸の風景はまた格別です。橋の下を通過する時や、用水の

取り入れ口、大きな排水機などをカメラに写します。時には兩岸の茂みの中からバタバタと大きな羽音を立てて飛び立つ鳥の群れにびっくり。こんなところにねぐらがあったのかと、驚いたり感心したり。

ゴムボートは底が平らでセクターボードがないので、方向性が悪く、左右のオールのバランスによってくるると廻るのが欠点。それに風に弱く、少し強い風が吹くと風に押し流されてしまうのです。大水の時はどうかかわりませ

んが、中の口川の流ればそれほど強くはないようです。幾つか橋の下をくぐったところ、下流から吹く風が強くなり、ボートがさっぱり進まなくなりました。漕いでも漕いでも同じあたりをうろうろ。これ以上は無駄だと思ひ、上陸を決心しました。橋の下にあって、ゴムのボートをたまたみ、橋を渡って近くの電單車につくと、そこが七穂駅でした。一回目の川下りはこうして終わりました。

さて、七穂より下流の川下りはいつにしようかと、夏が来るたびに思ひを募らせているうちに三年目となりました。今年こそはと七月二十三日、決行しました。先に上陸した蛙とり舟の棧橋からです。

今回は風も穏やか、流れも静か。お天気も心配なし。まずは平穩な船出となりました。岸を離れてからは無理をせず、ゆっくり漕いで下りはじめました。大体は右岸よりを進んでいきました。七穂の橋が次第に遠ざかるとともに、次の

柏谷 欽二(興野四区)

お年寄り マナーの良さが 身を守る

◎夜間、出歩くときは明るい服装で
◎正しいルールとマナーで安全運転
◎シートベルト、ヘルメット着用を
■高齢者自転車乗り大会を開催
9月11日(火) 総合体育館

高齢者交通安全旬間 9月11日～20日

短歌 黒埼短歌会

橋が近づいてきます。確実に下っているのがわかります。所どころに用水の取り入れ口があります。板井の橋の下でボートを橋脚につなぎ、昼飯と午睡です。一時間ほど休憩してまた出発です。橋、取り入れ口、護岸工事完成箇所では写真撮影です。このあたりでも、兩岸の茂みの中から鳥たちが飛び立ちます。このような風景は、白根を出てから大野へ来る途中の至るところで見ることができました。こ

の鳥たちの種類・生態の勉強はこれからの宿題です。ようやく木場の橋下を通過しました。金巻の浄水場の赤い建物や取水塔も見えます。やと金巻へ着いたなどという感じがします。もう少し、がんばれとオールを握る手に力が入ります。流れは大きく右にカーブします。今度は、体育館の大きな屋根が見えてきます。国道の鉄橋が見えるころ、ぐつと左岸に寄って新大野駅前の釣り場に近寄り、そ

俳句 黒埼俳句会

ここに上陸しました。そこには一區の久住さんが迎えに来てくれたように立っていました。ボートや荷物を陸揚げすると、久住さんと今日の出来事を話しながら、ボートの収納作業です。

七穂をでてから約五時間、正味四時間の川下りでした。昔はいろいろな船が上り下りしていたようですが、今はほとんど通る船はありません。船外エンジン付きのレジジャーボートをたくさん見ました

が、みんな岸につながれたまま。私が子供のころ、安進丸、白根丸などという蒸気船が運行されていたことをおぼえています。今では遠い昔の話になってしまいました。

何年も前から計画していた中の口川下り、私なりの冒険をひとまずなしたとげ満足感にひたっています。今度はここからさらに下って、生れ故郷の新潟万代橋まで、いくつかの橋の下をくぐってみたいと思つています。

短歌 黒埼短歌会

紫陽花の咲く川べりの境内に嬉々と声する子らのいるらし 小出美喜子

日中の絆結ばる外相はサインの筆を静かに置きぬ 長谷川トトリ

一坪の砂場に遊びし子等帰る喜れ行く時を遊具を寄せる 大矢 キイ

紫蘇畑にまじりて生えしすぎな草ひとときわ緑あざやかに見ゆ 阿部 淨子

石投げて竹馬乗りて遊びたる吾が故里も街となりたり 山田 卯八

人気なき草むす庭に次々と時を忘れず花咲き匂う 渡辺 ウタ

誰かが食べるか知らず世団子買う人思い丹念に作る 大谷 モト

今年また多数実つけし梅の木を後にし姪の柩出で行く 泉井 ヨ子

ライラック花咲く頃に来てくれと札幌の義姉便りを寄こす 柴垣 きみ

切りたての色鮮かなブロッコリー頂きたれば夕餉賑わう 堀内 昌江

先走る子を追いこさんとする孫に体のり出し声援おくる 笠原 セツ

水分をたっぷりふくんで紫陽花の今が盛りと咲きほころぶなり 鷲尾 車角

あやめ園の道に行きあう誰れも誰れもよき顔しおりわれもその一人か 伊藤 一男

黒鷲激しく鳴きて白じらと夜明けを告ぐる日の本の光 永田 和子

あきらめる事にもなれて半夏生 代 香

紫陽花の青ばかりなり出湯の里 よしお

思ひきり大柄な服大暑かな し げ

喜雨くれば次の仕事のあれこれと としお

千梅の香りを瓶におさめけり み い

富士の灯の見える山小屋宿燈す ときよ

暮掃除妻の名ありなぞりみる 正 二

駆け足で恋しめ廻る喜雨の来る みどり

干し上げし真孤を編んで盆を待つ きよし

コーラスの練習帰えり月涼し 多 佳

水飲んで故郷問われをり岩清水

イヤリングきらりと決めて夏姿 憲 治

夏草の茂るにまかす無人駅 も と

手花火の終れば闇のいよ濃し 陸 治

干し上げしふとんの上の昼寝かな 佐藤 キン

餌まきてキキョウの葉かけスズメ よる

爽かや柏手澄める朝の風 小林とし松 明子

正しい交通ルールが身につく 楽しいイベントがいっぱい

レディース ドライバー フェスティバル

9月24日(月) 振替休日 午前10時～
新潟県運転免許センター(北蒲原郡聖籠町)
母と子の交通安全教室、屋外ステージでの
パラエティショーなど盛りだくさん!
新潟県警察本部 ☎284-3131 内線2822

中国甘肅省文物展 越佐のあけぼの展

9月14日～10月23日 新潟県美術博物館

※ 緒立遺跡からの出土品も出展されます。

入場料(前売り)
一般1000円(800円)
高校・大学生 500円(400円)
小・中学生 300円(200円)

中の口川築堤および護岸工事が行われるため、9月1日から大野の中の口川河川敷の児童交通公園が廃止

となり、車の出入りができなくなりますので、ご協力をお願いします。

7 役場商工振興課